

平成 29 年度 学科 AO 入試 総合考査 問題用紙【武道教育学科】  
試験時間：90分

.....  
平成 20 年の学習指導要領改訂(中学校)により、平成 24 年 4 月から全国の中学 1・2 年生に対し武道が必修化されていることは周知のとおりです。

武道の学習内容の中で、「態度」という観点からは「相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を学ぶ」とされていますが、具体的には「相手を尊重し合うための独自の作法、所作を守ることに取り組もうとすること。つまり自分で自分を律する克己の心を表すものとして礼儀を守るという考え方があることを理解し、取り組めるようにする。」とされています。

資料は 1899 年に新渡戸稲造が著した「武士道」からの抜粋です。資料を読んで以下の問いに答えなさい。

- 問1. 新渡戸の考える「礼」について、自分自身が行っている武道・伝統芸能における「礼」・「礼法」に照らし合わせて詳しく説明しなさい。
- 問2. 先般行われたリオデジャネイロオリンピック柔道競技では「ガッツポーズ」を行う選手が度々映し出されました。2020 年東京オリンピックでは柔道に加えて空手も正式種目として採用が決定しましたが、今後武道としてあるいはオリンピックの競技種目としてどのようにあるべきか「礼」の観点から具体的に提言しなさい。

<資料>

日本人の美しき礼儀の良さは、外国人旅行者の誰もが認めるところである。だが、もし礼が、「品性のよさ」を損なうおそれがあるがために行われるのであれば、それは貧弱な徳といわねばならない。なぜなら、礼は他を思いやる心が外へ表れたものでなければならぬからだ。

それはまた、物事の道理を正當に尊重することであり、それゆえに社会的な地位を當然のこととして尊重する意味も含まれている。しかも、それは金銭上の貧富の差を問うのではなく、いかに人間として立派かを問うのであり、心の価値にもとづく区別なのである。

礼の最高の形態は、ほとんど愛に近づく。それは私たちに<sup>はいげん</sup>敬虔な気持ちをもって、「礼は寛容にして慈悲深く、人を憎まず、自慢せず、高ぶらず、相手を不愉快にさせないばかりか、自己の利益を求めず、憤らず、恨みを抱かない」ものであるといえる。～中略～

作法は細部にわたって念入りに定められているため、それぞれが別の様式を唱えて、いろいろな流派が誕生した。だがそれらは根本的なところではすべて一致している。もっとも有名な礼法の流派である小笠原宗家(小笠原清務)の言葉によれば、「礼道の<sup>ようてい</sup>要諦は心を陶冶することにある。礼をもって端座すれば、凶人剣を取って向かうとも害を加うこと<sup>あた</sup>能わず」という。つまり、正しい作法をたえず訓練することによって、身体のあらゆる器官と機能に完全な秩序をもたらし、肉体と環境とを調和させることによって精神の支配をおこなうことができる、というのである。～中略～

優美さが無駄を省いた作法という言葉が真実なら、優美な立ち居振る舞いのあくなき練習は、論理的に言えば、内なる余力を蓄えることにつながる。したがって洗練された作法というものは平静状態の無限なる力を意味する。～中略～